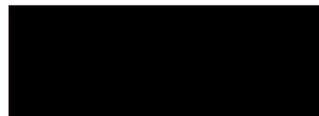


# 国語科学習指導案

指導者



1 日時 平成24年7月〇日 (〇)

2 学年・組 第3学年〇組

### 3 指導事項

#### (1) 読むこと ア

- ・ 文脈の中における語句の効果的な使い方など、表現上の工夫に注意して読むこと。

#### (2) 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ言葉の特徴やきまりに関する事項 (ア)

- ・ 時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いを理解する。

4 単元名 4 状況を読む「挨拶—原爆の写真によせて」(石垣りん)

### 5 言語活動

- ・ 詩を読み、初発の感想を交流すること。
- ・ 詩を読み、作者のものの見方や考え方について意見を交流すること。

### 6 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
○ 詩を読み、語句の効果的な使い方など、表現上の工夫に注意して、自分の考えを深めようとしている。	○ 文脈の中における語句の効果的な使い方など、表現上の工夫に注意して読み、詩に表現された作者のものの見方や考え方を読み取っている。	○ 詩が書かれた時代の言葉の意味や使われ方に着目し、時間の経過による言葉の変化に注意して正しく読んでいる。

### 7 単元について

#### ○ 生徒の状況

- ・ 文学的文章の読みについては、小説では作品の全体像をつかみながら根拠となる表現を明確にして、登場人物の気持ちや心の変化等を読み取る学習を、また、俳句では、作者が選び抜いて使用した語句から創造豊かに情景や心情をイメージする学習を進めてきた。しかし、これらの学習内容の定着や、作品を構造的につかむことについては不十分である。

#### ○ 教材の価値

- ・ 本教材は、「序論・本論・結論」ともいえる文章構造を持ち、それぞれのまとまりもキーワードを中心に構造的に描写されている。そのため、生徒が作品の全体像をつかみながら語句の効果的な使い方など、表現上の工夫を通して読み味わうのに適した教材である。また、使用されている言葉は平易なものがほとんどで、作者のものの見方や考え方を読み取る学習として取り組みやすい教材である。

#### ○ 指導の工夫

- ・ 三つの主要発問について自分の考えをノートに書かせることで、思考の流れが生まれるようにする。
- ・ 小グループ学習を行うことで、多様な意見の交流ができるようにする。

### 8 単元の学習と評価の計画

時	学習活動(評価方法)
1	詩が作られた背景を知り、難語句を理解すると共に感想を交流する。(ノートの感想文)
2	第1連から第5連を中心に、作者の心情を読み取る。(ノートの意見、授業観察) <本時>
3	作者が詩に託したメッセージを読み取る。(授業観察)

\*準備物 主発問の掲示

9 目標

- 文脈の中における語句の効果的な使い方など、表現上の工夫に注意して読み、詩に表現された作者のものの見方や考え方を読み取る。

10 学習展開

過程	学 習 活 動	指導上の工夫・留意点	評価規準・評価方法
確認 意欲付け	1 前時の学習を振り返る。 2 全文を音読する。 3 本時の目標を理解する。	○ 一斉読み及び指名音読を行う	
展開	1 「顔」をキーワードとして、「私」が考えたことを読み取る。 (1) 第1連から第3連までを音読する。 (2) 「顔」という言葉が繰り返し使われていることを確認する。 (3) 二つの「顔」が対照的に描かれていることを理解する。	○ 文章を構造的にとらえさせる。	<b>読</b> A：二つの「顔」を関連付けて、「私」が考えたことを書いている。 B：一方の「顔」について「私」が考えたことを書いている。
	対照的な二つの顔を見て「私」が考えたと思うことをノートに書こう。		
	(4) ノートに書いた考えを、小グループで意見交換する。 (5) 意見交換で深まった考えを発表する。 2 作者が「りつぜん」としたのはなぜかを読み取る。 (1) 第4連と第5連を音読する。 (2) 「明日の表情」を具体的ににする。 (3) 詩が作られた当時の地球の状況を読み取る。	○ グループ協議の目的をはっきりとさせる。 ○ 意見交換が成り立たないグループや、協議に参加できない生徒を支援する。 ○ 全体へ発表させる際には、意見がつながっていくように留意する ○ 文章を構造的にとらえさせる。	Cと判断される生徒への支援：「戦火の跡もとどめぬ」とはどういうことかを考えさせる。 <b>読</b> A：地球の現状を踏まえながら「りつぜん」とした理由を書いている。 B：「りつぜん」とした理由を書いているが、地球の現状には触れていない。
(4) ノートに書いた考えを、小グループで意見交換する。 (5) 意見交換で深まった考えを発表する。		Cと判断される生徒への支援：第5連が第3連の繰り返しになっていることを確認させる。	
日常化 一般化	1 語句や表現方法に着目すると読みが深まることを確認する。 2 次時の予告 (1) 作者が託したメッセージを読み取ることを知る。	○ 今日の学習で分かったことを発表させる。	